

「研究活動と専門資料の問題点（復習）：ドキュメンタリー番組から学ぶ」

【本日のねらい】ドキュメンタリー番組の鑑賞を通じ、研究の実情や、学術雑誌・査読の問題点を確認する。

\*本日ビデオで鑑賞する番組：BSドキュメンタリー「史上空前の論文捏造（ねつぞう）」  
(50分。2004年10月9日(土) NHK BS1にて放送)

→番組内容は以下の新書としてまとめ直されている。

村松秀『論文捏造』中公新書ラクレ, 2006.

◆ 番組内の用語の解説（鑑賞前の確認）

- ・ (1) \_\_\_\_\_ : ある研究者が行った実験の結果が正しいことを確かめるため、同じような実験を他の研究者が行うこと。
  - 結果を再現できれば、もとの実験が正しいと判断される。
  
- ・ (2) \_\_\_\_\_ : 新しい「発明」についてそれを考え出した人に利益を与えるしくみ。  
(第4回の授業内容を復習のこと)
  - 「特許資料」のかたちで発明に関する方法を広く公開する（その活用を促す）と同時に、その方法を活用したい人が発明者に一定期間だけ「使用料」を払う（日本では20年）。  
→実際には発明者の所属する機関（大学、企業など）が(2)を保有することが多い。
  - 特に「理系」では学術論文とならび、研究の重要な成果と位置づけられる。
  
- ・ (3) \_\_\_\_\_ : 複数の研究者が共同で行う研究。
  - 文系の研究と比べると、理系の研究は(3)として行われることが多い。背景としては、研究上の役割分担（研究活動の全体を統括する人、「先行研究」を調査する人、実験を行う人、実験データを整理し分析する人、など）の必要性があること、また大規模（あるいは小規模でも高価）な実験施設を使う必要があること、などが挙げられる。
  - 研究成果としての論文にも、著者として複数の名前が挙がる。  
この場合、「筆頭著者」（一番最初に著者として記載されている者）が、論文の内容に最大の責任を負うべきだとされる。  
2番目以降の著者の並べ方については、特に定まった基準があるわけではない（単純に五十音順ないしアルファベット順で並べる場合も、あるいは論文を書いた順番に並べる<後の章を書いた人の名前が後に来る>場合もある）。

◆ 鑑賞のポイント（各自チェックのこと）

1. 問題になった研究の分野は何か？
2. 「科学ジャーナル（雑誌）の最高峰」と言われる雑誌のタイトルは？（2つ）
3. 番組に出てきた「レフェリー（査読者）」は問題の論文にどんな意見を持っていたか？
4. 番組の中で、論文の捏造について一番の被害者は誰だと主張されているか？
5. 外部の研究者は、捏造の「証拠」が何であると突きとめたか？
6. 不正を行った研究者の「上司」は、自分と「部下」の責任をどう考えているか？
7. 最終的に、現在の研究体制の問題はどのような点にあると主張されたか？（2人の意見）

【次回予告】 1/11（木）

- ・ レポートについて、講評や、補足すべきポイントの解説などを行う。
- ・ 時間があれば「インターネットの普及と、専門資料の新たな動向」について解説する。  
（後者は 1/18 に回す可能性もある）